

# 令和8年4月 急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランス

## 宇都宮市のARIサーベイランスについて

本市では、市内12か所の定点医療機関からARIと診断された患者の数を毎週、御報告いただいています。これによって、宇都宮市におけるARIの流行状況を把握することができます。

また、患者数の報告を行う定点医療機関の中で、病原体分離のために検体採取を行う医療機関（病原体定点）が、市内に2か所定められており、採取した検体は宇都宮市衛生環境試験所にて、以下の呼吸器ウイルスの遺伝子検査を行っています。

検査対象病原体：インフルエンザウイルスA/B、新型コロナウイルス、  
RSウイルスA/B、ヒトパラインフルエンザウイルス1～4、  
ヒトメタニューモウイルス、  
ライノウイルス/エンテロウイルス、  
アデノウイルス

## 患者発生状況

### 【定点当たり報告数（図1）】

- ・ 宇都宮市における3月期最終週（第13週）の定点あたり報告数は63.00例（報告数756例）で、第12週の65.42例（報告数785例）から減少しました。
- ・ 栃木県（宇都宮市を含む）では第13週72.96例（前週69.98例）、全国平均は50.87例（前週52.51例）であり、第12週と比べていずれも減少しました。

### 【患者の年齢構成（図2）】

- ・ 3月期の最終週（第13週）の年齢別割合は、0歳が8.9%、1-4歳が33.7%、5-9歳が23.1%、10-14歳が7.1%で、2月期同様、15歳未満が患者全体の約70%を占めました。

図1：定点当たり報告数の推移

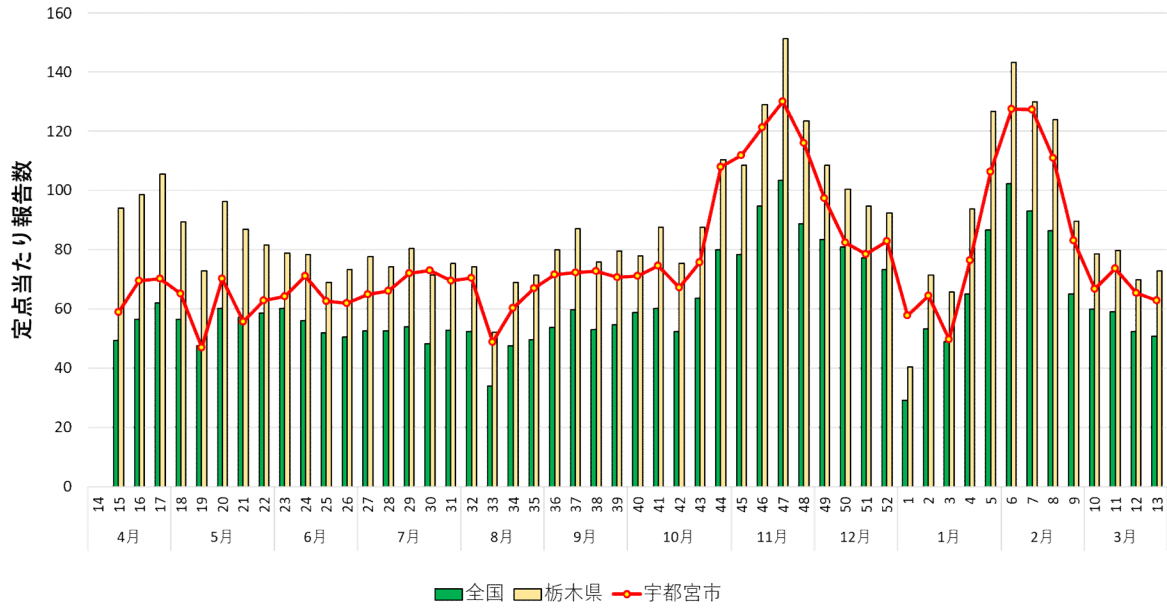


図2：患者の年齢階級別割合の推移

## 病原体検出状況

### 【病原体検出状況】

3月期（第10～13週）に採取された39検体のうち、24検体から何らかの病原体が検出され、陽性率は61.5%でした。3月期に多く検出された病原体は、インフルエンザウイルスB（18件）であり、次いでヒトパラインフルエンザウイルス（5件）、ヒトメタニューモウイルス（3件）でした（表1）。

特に、第11週ではインフルエンザウイルスBが10件中10件と、2月期に引き続き多く検出されていますが（図3）、その後は減少傾向がみられています。

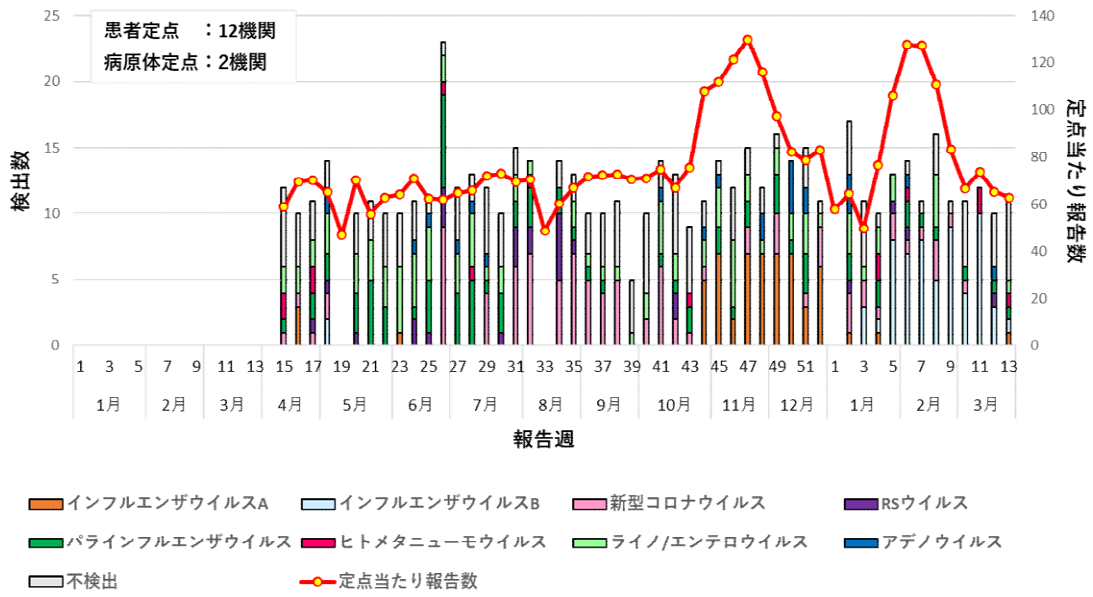
2月期と比較すると、インフルエンザウイルスB（ビクトリア系統）が約60%に減少しました。ヒトパラインフルエンザウイルス、ヒトメタニューモウイルス等が、引き続き検出されています。

表1：病原体検出状況（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	15-17週	18-22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週	1-5週	6-9週	10-13週	
検体数	31	40	40	50	30	35	49	40	40	40	40	39	355
不検出数	13	12	9	17	4	16	21	9	5	10	6	15	106
陽性率	58.1%	70.0%	77.5%	66.0%	86.7%	54.3%	57.1%	77.5%	87.5%	75.0%	85.0%	61.5%	70.1%
インフルエンザウイルスA	3	0	1	0	0	0	5	23	23	2	0	1	58
A/H1pdm09	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A/H3	3	0	0	0	0	0	5	20	18	1	0	0	47
A亜型不明	0	0	1	0	0	0	0	3	5	1	0	1	11
インフルエンザウイルスB	0	2	0	0	0	0	0	0	0	12	29	18	61
B/ビクトリア系統	0	2	0	0	0	0	0	0	0	11	29	18	60
B系統不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
新型コロナウイルス	3	2	9	10	19	14	12	2	7	8	6	1	93
RSウイルス	1	2	6	4	8	0	2	0	0	2	1	1	27
A型	1	1	5	1	2	0	0	0	0	0	0	0	10
B型	0	1	1	3	6	0	2	0	0	2	1	1	17
ヒトパラインフルエンザウイルス	3	13	14	16	6	2	4	7	8	4	5	5	87
1型	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	2	6
2型	0	0	1	4	1	1	0	3	3	0	3	0	16
3型	2	12	8	3	1	0	3	2	2	0	0	1	34
4型	0	1	5	9	3	0	1	2	3	3	2	2	31
ヒトメタニューモウイルス	4	0	1	1	1	0	1	0	0	2	1	3	14
ライノ/エンテロウイルス	6	12	15	12	3	4	10	11	8	8	4	1	94
アデノウイルス	0	2	2	3	0	0	2	3	6	3	1	1	23
検出数合計（同一検体からの複数検出含む）	20	33	48	46	37	20	36	46	52	41	47	31	457

※1つの検体から複数の病原体が検出される場合あり

図3：病原体検出状況(週別)

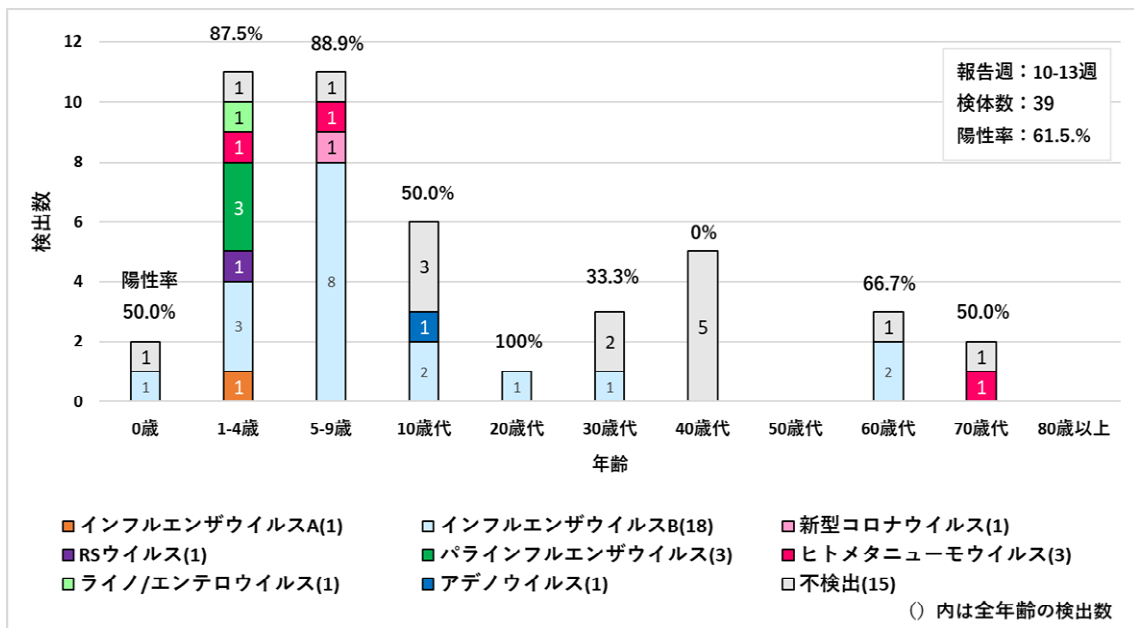


【年齢別病原体検出状況】

3月期（第10～13週）に採取された検体の年齢別内訳では、5～9歳が最も多く、次いで1～4歳、10歳代、40歳代の順でした。

3月期も2月期と同様に、5-9歳を中心に幅広い年代でインフルエンザウイルスB（ビクトリア系統）が検出されています（図4）。

図4：年齢別ARI病原体検出状況（3月期）



※ 1つの検体から複数の病原体が検出される場合もあります